



SAFE COMMUNITY TOWADA



外傷サーベイランス懇談会

発表日
発表者

令和5年11月16日（木）
外傷サーベイランス懇談会
副座長 新井山 洋子

外傷サーベイランス懇談会委員

No.	役職	所属・役職	備考
1	座長	十和田市立中央病院院長	救急医療に関する事務に従事する者
2	副座長	とわだセーフコミュニティをみんなですすすめ隊顧問	学識経験者
3	委員	青森県立保健大学教授	学識経験者
4	委員	上十三保健所長	保健関係行政機関の職員
5	委員	十和田地域広域事務組合消防本部 警防課課長	消防関係行政機関の職員

外傷サーベイランス懇談会設置経緯①

■十和田市S C最初の認証時の外傷の把握方法

●2008年 家庭訪問による外傷世帯調査を実施

調査員総勢140人が26,299世帯から
無作為抽出による600世帯を訪問
(回収率78.4%)



●2009年 S C 認証取得

課題① 調査員の確保が難しいため、継続できない

課題② 専門家によるデータ分析ができていない

外傷サーベイランス懇談会設置経緯②

■課題1：救急搬送、医療機関受診データを活用

●2010年 持続性のあるデータの入手方法を検討

消防本部や市内の外科・整形外科等に協力依頼



●2011年 消防本部や市内の外科・整形外科の 7医療機関データを収集

年間約1,800人のデータを収集



●2014年 消防本部及び市立中央病院のデータのみとする

医療機関の負担を考慮し、消防本部及び市立中央病院の
データのみに変更

2014年（約900人） 2022年（約750人）

救急搬送・医療機関データの構成

■救急搬送データ及び医療機関受診データの主な項目

No.	項目
1	発生日、年齢、性別等
2	事故種別⇒①一般負傷（転倒、転落、窒息、誤飲、やけど等）、 ②運動・競技 ③交通事故 ④自損 等
3	傷病名
4	傷病程度⇒①軽症（処置後に帰宅） ②中等症（入院見込み） ③重症（3週間以上の入院見込み） ④死亡
5	発生場所
6	受傷時の行動状況
7	受傷時の具体的な様子
8	その他（チャイルドシートの有無、飲酒の有無等）

外傷サーベイランス懇談会設置経緯③

■課題② 外傷サーベイランス懇談会を設置

- 2013年 ①外傷等の調査方法及び記録
- ②外傷等の課題の抽出及び予防対策の評価
- ③外傷等の調査結果の活用方法

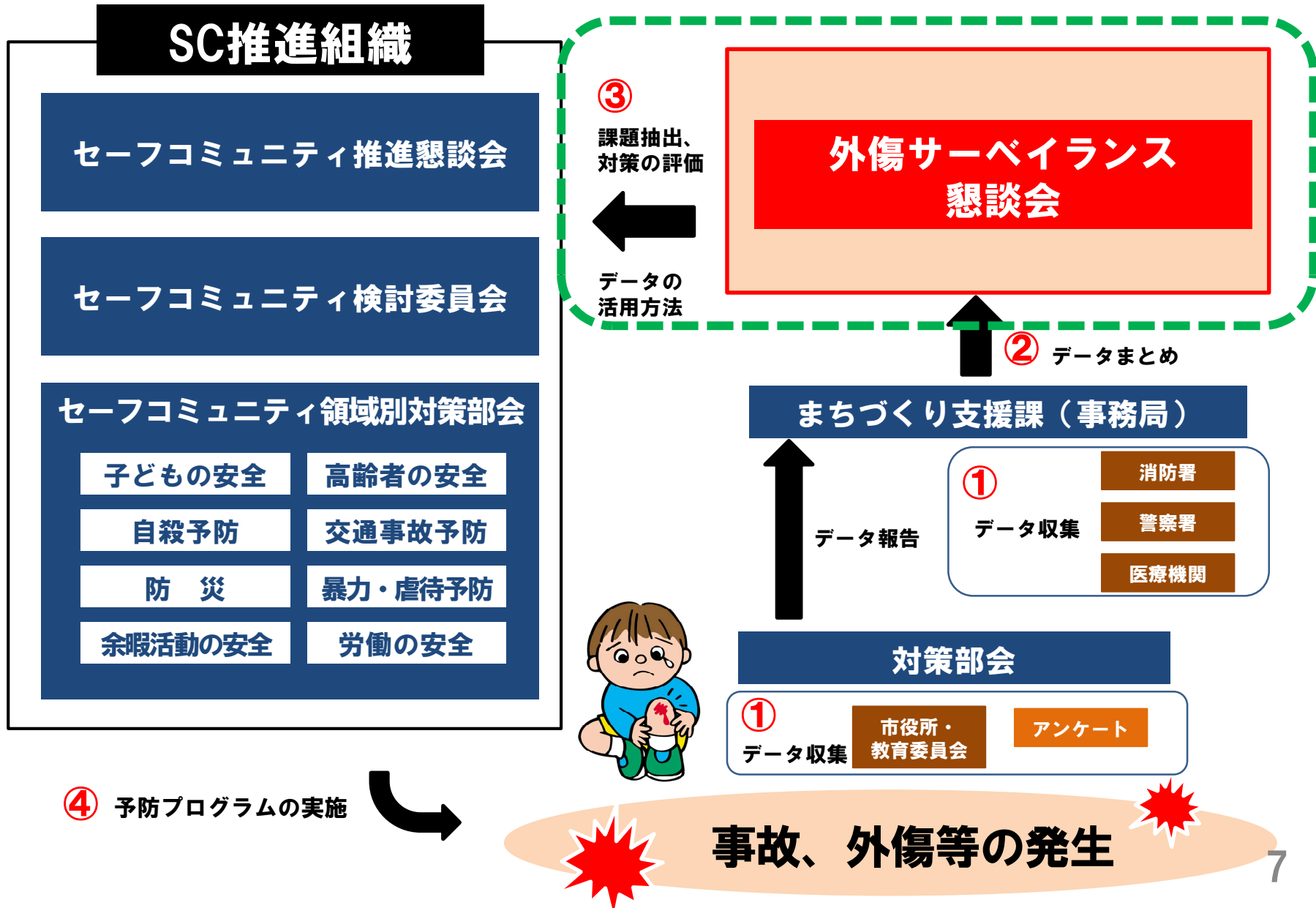
以上の事項について意見交換を行う

“外傷サーベイランス懇談会”

を設置

- 2019年 部会員をオブザーバーとして懇談会に参加

外傷サーベイランス懇談会の位置付け



外傷サーベイランス懇談会開催状況

■2019年からオブザーバーとして部会員が参加

開催日	内容	部会員の参加
2019年7月19日	十和田市における外傷の状況について	○
2020年10月9日		×（コロナ）
2021年11月9日		×（コロナ）
2022年11月4日		○

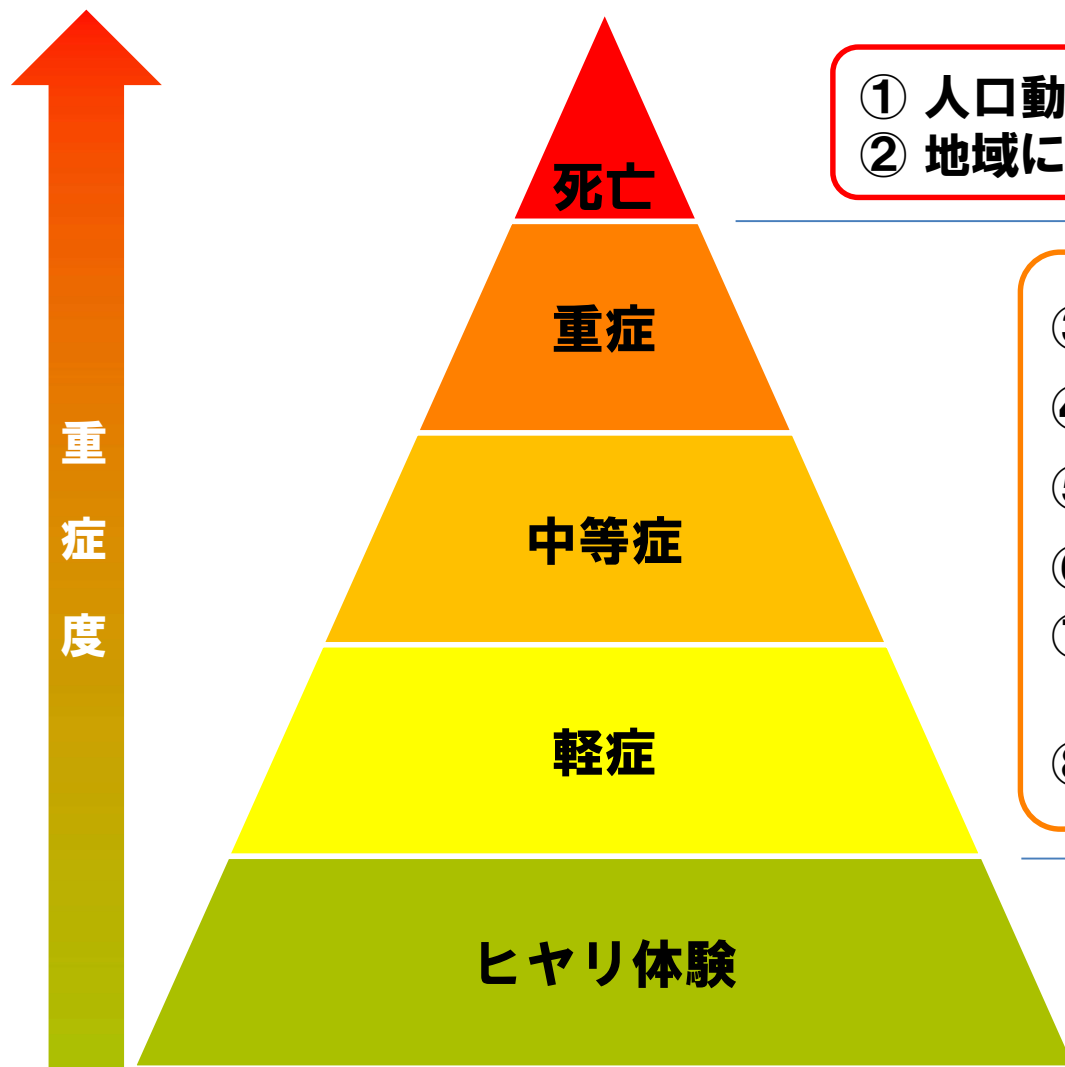


●部会員の参加より、部会の取組だけでは見えてこない現場（部会員の職場）の状況を懇談会委員に伝えることができた

●懇談会委員から、外傷データや今後の取組に向けた意見等の情報共有が図られた。

2022年の開催の様子。

データを体系的に収集する仕組み



- ① 人口動態統計
- ② 地域における自殺の基礎資料

- ③ 救急搬送データ
- ④ 中央病院受診データ
- ⑤ 警察統計
- ⑥ 消防年報
- ⑦ 日本スポーツ振興センター
災害共済給付
- ⑧ 労働災害統計

アンケート調査等

データの構成

■サーベイランス懇談会で確認するデータ

【統計資料等】

No.	データ名	対象	担当部会	出典先	頻度
①	人口動態統計	全住民	全対象	厚生労働省	毎年
②	地域における自殺の基礎資料	全住民	自殺		毎年
③	救急搬送データ	全住民	全対象	消防本部	毎年
④	中央病院受診データ	全住民	全対象	市立中央病院	毎年
⑤	警察統計	全住民	交通事故 予防	警察署	毎年
⑥	消防年報	全住民	防災	消防本部	毎年
⑦	日本スポーツ振興センター災害共済給付	小中学生	子どもの 安全	日本スポーツ 振興センター	毎年
⑧	労働災害統計	労働者	労働の安全	労働基準 監督署	毎年

赤字：2022年追加データ

データの構成

■サーベイランス懇談会で確認するデータ

【アンケート等】

No.	データ名	対象	担当部会	出典先	頻度
①	市民アンケート	全住民	全対象	市役所	不定期
②	農作業安全確認アンケート	農業者	労働の安全	農協	毎年
③	企業や事業所等の安全対策に関する調査	企業・事業所	自殺予防 労働の安全	労働基準協会	毎年
④	いきいき体操参加者アンケート	高齢者	高齢者の安全	市役所	毎年
⑤	地域いきいき教室参加者アンケート	高齢者	高齢者の安全	市役所	毎年
⑥	乳幼児を持つ保護者への意識調査	乳幼児を持つ保護者	子どもの安全	市役所	必要時
⑦	防災に関するアンケート（モデル地区）	モデル地区	防災	市役所	2021年

赤字：2021年追加データ

データの全体像

区分	乳幼児・就学時 (0~14歳)	青壮年 (15歳~64歳)	高齢者 (65歳以上)
死亡	①人口動態統計 ②地域における自殺の基礎資料		
	③救急搬送データ(外傷の人数) ④中央病院受診データ(外傷の人数)		
重症	⑤警察統計(交通事故による死亡者数、自殺死亡者数) ⑥消防年報(火災による死傷者数)		
中等症	⑦日本スポーツ振興センター 災害共済給付 (児童生徒の外傷の人数)	⑧労働災害統計 (労働による外傷人数)	
軽症			
ヒヤリ 体験	⑨市民アンケート	⑩農作業安全確認アンケート ⑪企業や事業所等の安全対策調査	
			⑫いきいき体操参加者アンケート ⑬地域いきいき教室参加者アンケート
	⑭乳幼児を持つ保護者への意識調査		⑮防災に関するアンケート(モデル地区)
	⑯暴力・虐待等による相談データ		

十和田市の外傷の状況①

■不慮の事故等による死亡者数年代別

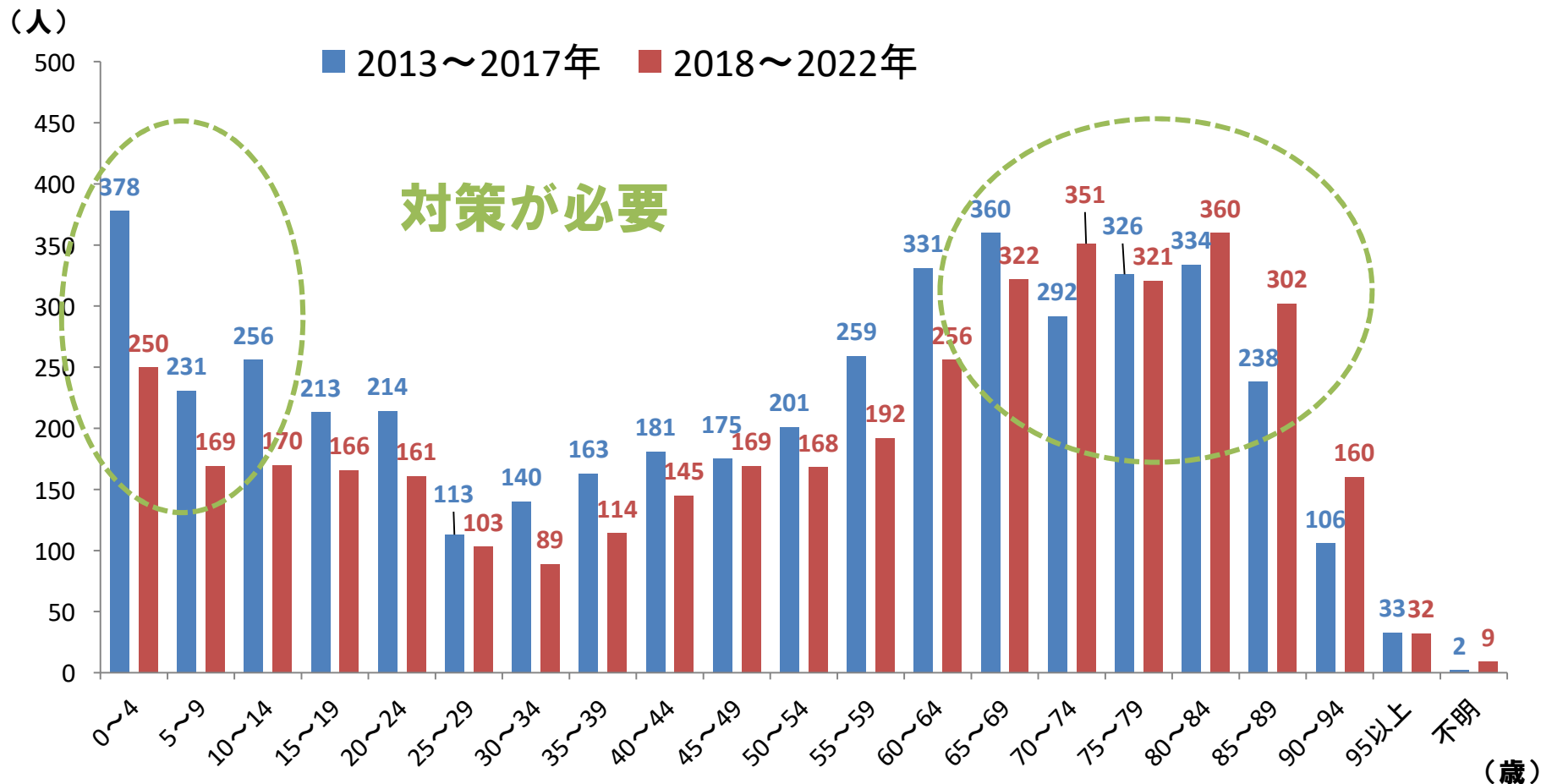
図表 1 死亡者数年代別

死亡原因	合計 n=260	2014～2018年			合計 n=155	2019年～2021年		
		0～17歳	18～64歳	65歳以上		0～17歳	18～64歳	65歳以上
不慮の事故	157 (60.4%)	3人	33人	121人	91人 (58.7%)		18人	73人
窒息	53人 (20.4%)	1人	8人	44人	20人 (12.9%)		4人	16人
交通事故	28人 (10.8%)	1人	11人	16人	13人 (8.4%)		3人	10人
転倒・転落	20人 (7.7%)		3人	17人	13人 (8.4%)		2人	11人
溺死	25人 (9.6%)	1人	6人	18人	20人 (12.9%)		2人	18人
煙及び 火炎への曝露	6人 (2.3%)		0人	6人	5人 (3.2%)		0人	5人
有害物質 による中毒	4人 (1.5%)		1人	3人	0人 (0%)		0人	0人
その他の 不慮の事故	21人 (8.1%)		4人	17人	20人 (12.9%)		7人	13人
自殺	80人 (30.8%)	1人	44人	35人	46人 (29.7%)		25人	21人
他殺	1人 (0.4%)		0人	1人	2人 (1.3%)		1人	1人
その他の外因	22人 (8.5%)		3人	19人	16人 (10.3%)		1人	15人

十和田市の外傷の状況②

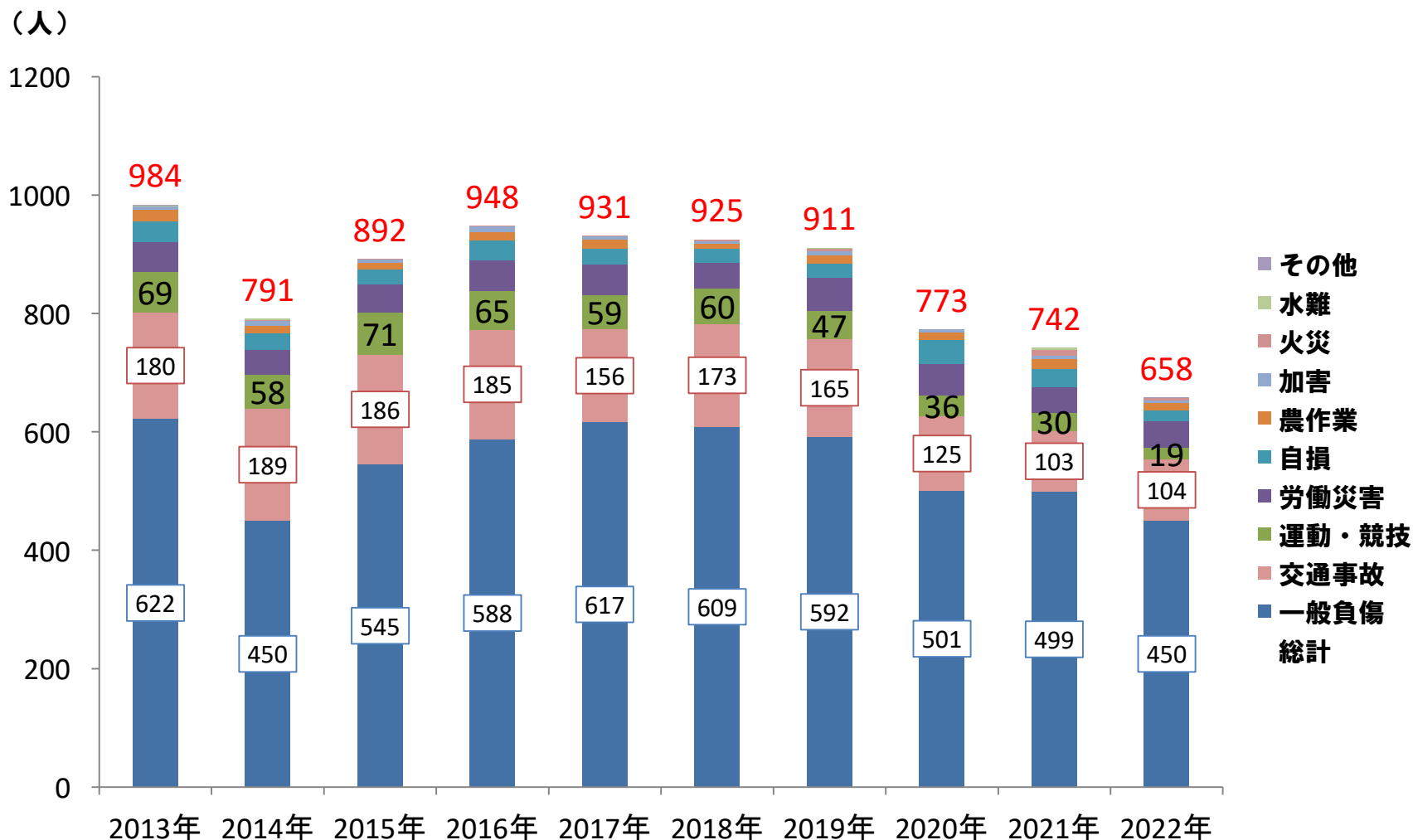
■救急搬送及び医療機関受診データの集計結果

図表2 年代別受傷者数



十和田市の外傷の状況③

図表3 事故種別による推移



出典：救急搬送及び中央病院受診データ（2013年～2022年）

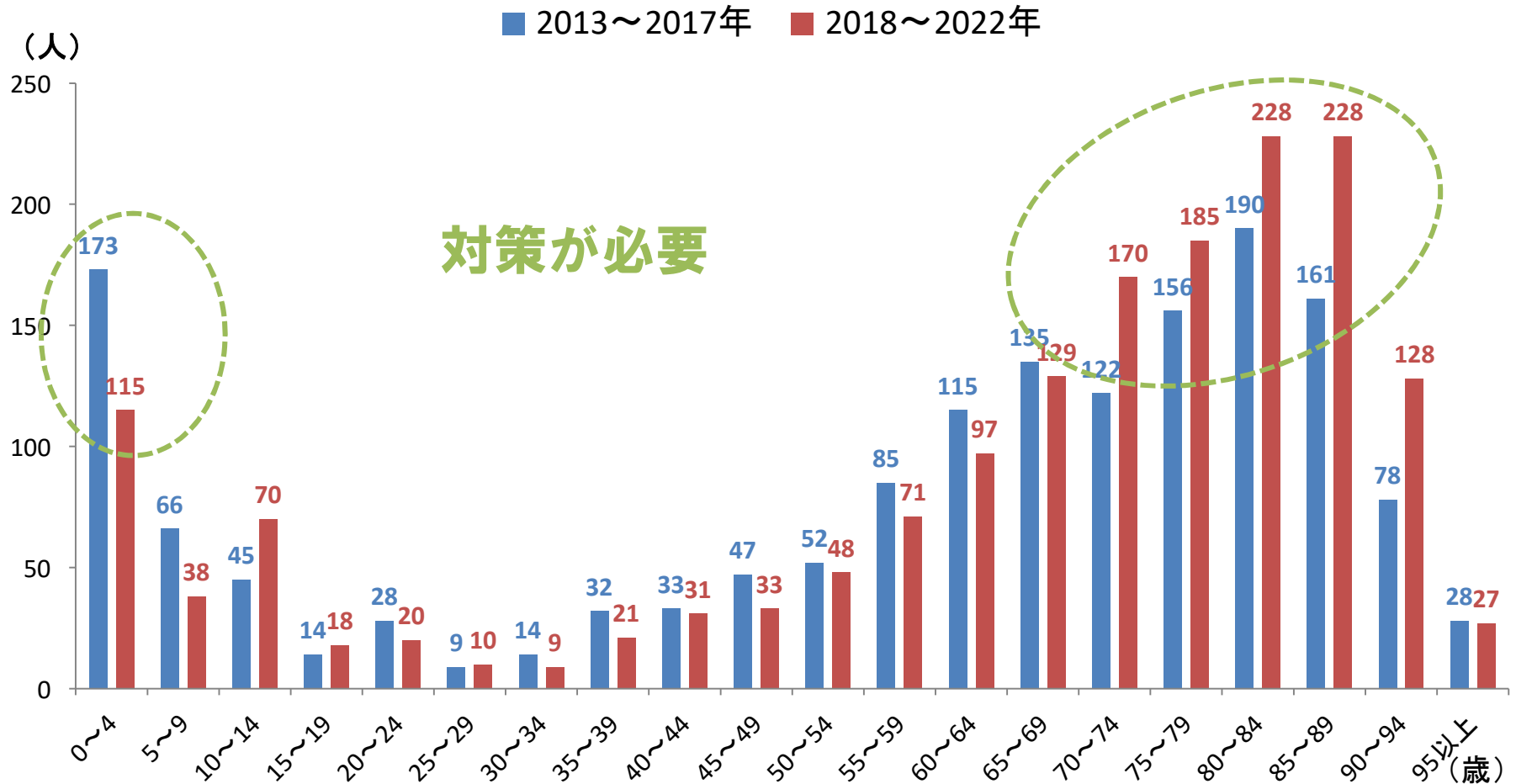
十和田市の外傷の状況④

図表4 一般負傷の内訳（n=5,473）

受傷原因	2013～2017年	2018～2022年
転倒	44.6%	52.9%
転落	11.5%	10.3%
虫刺、咬傷	10.9%	9.4%
切る、刺す（刃物等）	8.8%	8.1%
接触又は衝突	6.6%	4.3%
やけど（ストーブ熱湯等）	5.3%	3.6%
誤飲	2.7%	1.7%
窒息	1.9%	2.3%
挟む、加圧	1.6%	1.4%
誤嚥	0.2%	0.3%
その他	6.1%	5.5%

十和田市の外傷の状況⑤

図表5 転倒・転落の年代



市民アンケート①

■市民アンケートの調査方法の変更

2019年まではコミュニティセンターまつりの来場者を対象に実施してきたが、来場者にはリピーターが多く、対象者が限られてしまうことから、サーベイランス懇談会で委員に相談し、2020年から無作為抽出によるアンケートに変更。

回答者数が300～400人から、800人以上に増えた。

市民無作為抽出アンケートの概要

アンケート方法	郵送調査
対象範囲	18歳以上 男女2,000人
調査項目	全28問（2021年時）
実施時期	2020、2021年以降は隔年で実施。次回は2023年度

調査方法変更による指標への影響①

■増加傾向にありと思っていた指標の数値が**減少**

図表6 暴力・虐待予防対策部会の短期指標

変更

調査年	2015年 (n=388)	2017年 (n=310)	2019年 (n=212)	2021年 (n=837)	
①虐待の通報は、虐待の疑いがあると思う場合でも受け付けられることを知っている割合	59.0%	66.5%	71.7%	58.5%	減少
②虐待の通報は、通報者が特定されないように配慮されていることを知っている人の割合	42.0%	49.7%	50.5%	35.5%	減少

調査方法変更による指標への影響②

■ **減少**した指標の数値が多いが、**増加**した指標の数値もある。

図表7 防災対策部会の中期指標

変更

調査年	2015年 (n=388)	2017年 (n=310)	2019年 (n=212)	2020年 (n=850)	2021年 (n=837)	
住宅用火災警報器の設置	50.0%	52.0%	59.3%	61.3%	63.4%	増加
消火器・バケツの用	35.1%	50.8%	46.8%	36.0%	31.1%	減少
家具などの固定・補強	36.6%	46.3%	35.8%	29.4%	25.8%	減少
食料の備蓄(3日分程度)	33.2%	46.0%	41.6%	43.1%	42.5%	増加
避難経路・避難場所の確認	26.0%	43.2%	36.7%	31.5%	28.6%	減少
建物の耐震診断、建物や塀の補強	9.5%	37.6%	10.7%	7.4%	7.3%	減少
市の安全・安心メールへの登録	13.1%	41.5%	21.4%	9.9%	15.2%	減少

出典：市民アンケート（2015、2017、2019、2021年）

外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映①

■懇談会委員の意見を部会等の活動へフィードバック

委員) アンケート調査を見ると、反射材を持っていない人が3分の2。
お年寄りだけではなく、家族に配布してはどうか。

交通事故予防対策部会で検討

対象を高齢者以外にも**拡大**

従来の高齢者世帯訪問時のほか、
イベント時や狂犬病予防接種の注射時など、
様々な機会に反射材を配布。

※詳細は交通事故予防対策部会で説明



外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映②

委員) 防災対策部会「住宅用火災警報器の推進プログラム」の内容について、設置率の調査が無作為で年によってばらつきが出てしまうので、モデル地区に設定して継続的に調査し、啓発してみてもどうか。

防災対策部会で検討

1つの小学校区を**モデル地区**に設定

市人口の約5%程度を占める1つの小学校区をモデル地区として設定し、もう一つのプログラムである「災害時の意識づくりプログラム」と一緒に、普及啓発を実施※詳細は防災対策部会で説明



外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映③

委員) サーベイランス懇談会で使用しているデータを、事務局でも活用し、いろいろな関係機関に配布したり、市民への啓発に使用してほしい。

事務局で検討

出前講座に外傷データを活用

市職員が講師となり、高校生や高齢者に市の外傷データを説明し、事故やケガの予防を呼びかけています。



その他のデータの活用例

- 十和田市安全・安心情報「駒らん情報メール」や市広報による注意喚起
- 市役所本館内でのPRコーナーの設営（左下）
- セーフコミュニティに取り組む高校生への提供（右下）



課題

■課題

- ・サーベイランス懇談会の助言をすぐに取組に生かすことができない。

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
領域別 対策部会	・部会員選任 ・取組検討	・取組	・取組	・検証
サーベイランス 懇談会	・データの収集 ・〃集計	・データの収集 ・〃集計	・外傷データの 検証・取組への 助言	・データの収集

既に各部会での取組が決まっているタイミングで開催している。

- ・8部会が意見交換をすると会議の時間がかかってしまう。

今後の方向性

■今後の方向性

- データ分析による活動の評価
- 検証課題に対しての改善点の提唱
- 施策に反映できる提言
- 会議の開催以外にも、部会員が委員から助言をもらえる体制整備



ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク
「十」十和田市の安全な街並み、
「和」美しい郷土・十和田湖と紅葉、
「田」人々の協働・交流・絆を表現